

はじめに

僕は勉強が好きだった。今でもそれは変わらないんだけど、そんなことを言うと周りの人から「変わってますね」と言われる。自分では変わっているつもりはないんだけど、あまり勉強が好きなのは多くないみたいだ。じゃあ君にも聞いてみよう。

あなたは勉強が好きですか？

この質問に、多くの生徒は顔をしかめて「キライ」と言う。生徒だけじゃない。生徒の親も苦い顔をしながら「好きじゃなかった」と言う。なんだろう？勉強することはそんなに嫌なものなんだろうか。

でも嫌だからといって勉強をしないでいいわけではない。生徒は勉強が嫌いと言って、やらないで済まそうとするが、大人は違う。大人は、好きではないとは言うけれど、その後にごう続けるんだ。

「あの時もつと勉強しておけばよかった。」

この点が子どもとは違う。勉強の必要性を実感しているから、しなかった自分を後悔している。勉強とは必要なものなんだね。大人たちは自分がした後悔を子どもにはさせたくないから、みんな口をそろえて言う。

「勉強しなさい！」
ってね。

でも僕は不思議に思う。自分が嫌いで、やりたくなかったものを、人にやりなさいって言うのは無理があるんじゃないかな？って。

例えば君がすんごくうまいラーメン屋を見つけたとする。君はきっと友達にも家族にも勧めるだろう。ラーメンはそんなに好きじゃないっていう人にも。

「このラーメン食べたなら世界が変わるから。いっぺんだまされたと思って食べてみて。」
なんて言うんじゃないか？

人は、好きなことは自分でどんどんやる。放っておいても勝手にどんどんのめりこんでいく。そのうち自分だけじゃ満足しきれなくなって他の人にも勧めていく。勧められた人も、

それを無理矢理やらされている人ではなく、それを「好きな人」「はまってる人」に勧められてるから、やってみようかなって思う。そして始めてみると、面白くてハマっていく。

流行やブームってものは、それを好きな人が勧めていくことによって、面白さや良さが伝わり、みんなもやるようになっていく。だから本来、勉強しなさいって言う人は一番勉強を楽しんでいないといけないんだよね。じゃないとその面白さは伝わらない。

でも誰かに勧めるのは、必ずしも楽しいからと言う場合だけじゃない。自分は嫌いなんだけど、相手のためを思って勧めなければならない場合もある。

また食べ物の例だけど、人には多かれ少なかれ、嫌いな食べ物ってあるじゃない。たくわんとか梅干とかわさびとか（ゴメン、僕は全部苦手だ）。子どもの嫌いなものナンバーワンはピーマンだね。僕は恥ずかしながら二十歳を越えるまでピーマンが苦手だった。だつてメチヤクチャ苦いじゃん（泣）お世辞にもおいしいとはいえないピーマン。だから、何とか食べないで済ませないかって、色々試してみた。食事中、ピーマンを口に含んで「ちよつとトイレ」ってトイレに行つて出したり、母親が席を立った隙に母親の皿に自分のピーマンを移したり、魚の骨とか食べかすの下に隠したりとか、ホント色んな作戦を立ててピーマンから逃げていた。

それくらいキライだったのに、親は「ちゃんと食べなさい」って勧めてくる。その理由は簡単だ。「体にとって必要な栄養素を含んでいるから」だ。大人になって、親になった僕は同じように娘達に「食べなさい」って言っている。ピーマンにはビタミンAとかビタミンCが多く含まれてるから、夏バテの防止など健康に効果が高いんだ。それを知ってるから、たとえそれが嫌いなものでも食べなければならぬ。それが「必要なら」やらなければならぬことがある。

こうして考えると、どうやら人間が何かをするのは「好きだから」か「必要だから」のどちらかなんだね。勉強はどうやら嫌いだけど「必要だから」の部類に入るんだろう。僕にとって、勉強は「好きだから」やっていたので全然苦じゃなかったけどね（笑）。しかも好きでやっていたのに、大人たちからは「たくさん勉強して偉いね」って褒められる。すごくラッキーだった。でも僕みたいに幸せな人はそんな多くはない。多くの生徒は勉強が嫌いだけど、「必要だから」って言われて苦しみながらやっている。「将来役に立つから」って言われてずっと勉強している。君達の中にも嫌々やっている人は多いだろう。

でも本当に勉強は必要なのか？君達が実際に社会人になって、ずっと言われてきた「将来」

が来た時に、大人はなんていうか知ってるか？僕が社会人になったとき、大人達はこう言っただ。

「学校で学んだことなんて役に立たないんだ。実際仕事をやりながら学べ！」

将来役に立つから、と子どもにも勉強させる大人たちは、子どもが「将来」を迎えたら平気な顔で「今まで学んできたことは意味がない」と言う。(ヒドイ)じゃあますます勉強しなくなっちゃうね(泣)。

僕は先生になった。学生の頃から塾で先生をやって、卒業後一度企業に勤めたけど、すぐに通信制高校の先生として教職に復帰した。そしてその後は家庭教師や予備校の講師をやったり、ボランティアで外国人に教えたり、自分の塾を持ったりと今まで13年間色んなところで先生をやってきた。僕は一番勉強が好きの人として、「勉強って実は面白いんだよ」って生徒たちに勧めてきた。たくさんの「勉強が嫌いな」生徒たちと出会った。泣きながら勉強していた子にも会った。でも一緒に授業をやっていく中で、生徒たちが勉強を「好き」に変わって行くのを見たんだ。僕はずっと考えてきた。どうして勉強が嫌いになるんだろう。どうやったら勉強が好きになるんだろう。やっとその質問の答えを見つけたんだ。

勉強が嫌いになる理由は、「わからないから」。

だから、ちゃんと理解さえすれば勉強は好きになる。

これが僕の出した答えだ。すごく当たり前。すごく普通のことを言っているよ。(笑) でもそれに気付いていない人が多い。あまりにも多い。

みんなよくわからないまま、無理矢理勉強している。無理矢理答えを暗記して、勉強をつまらなくしている。勉強していれば将来役に立つからって、よく分からない理由を無理矢理信じようとしている。実は心のどこかで「勉強したって何の役にも立たない」と思いながら。だから勉強が嫌いになる。

僕は君達に教えたい。勉強するとはどういうことなのか？親や学校の先生たちがそれをちゃんと教えないのは、きっとみんなそれを判ってはいないからだ。何のために勉強するのか？その答えをちゃんと伝えてあげないと勉強が嫌いになってしまふのに誰もそれを一番に教えようとしなないだから僕がそれを教えよう。勉強するというのはものすごく自然なもので、生きていくために必要なんだ。それを君達が納得するまで伝えていこうと思う。

この本は僕と相方の2人で作った「なかよし学園」の基本的な考え方を示している。生徒、親、そして社会に生きる多くの人につか「本当の教育」をしてもらいたい。みんなが学び、みんなが教えられる、そういう世の中をつくっていききたいと思つてのことだ。
キーワードは

「LOVE OTHERS for yourself」。

さあ楽しい授業を始めよう！

2010年3月 なかよし学園校長 中村雄一

